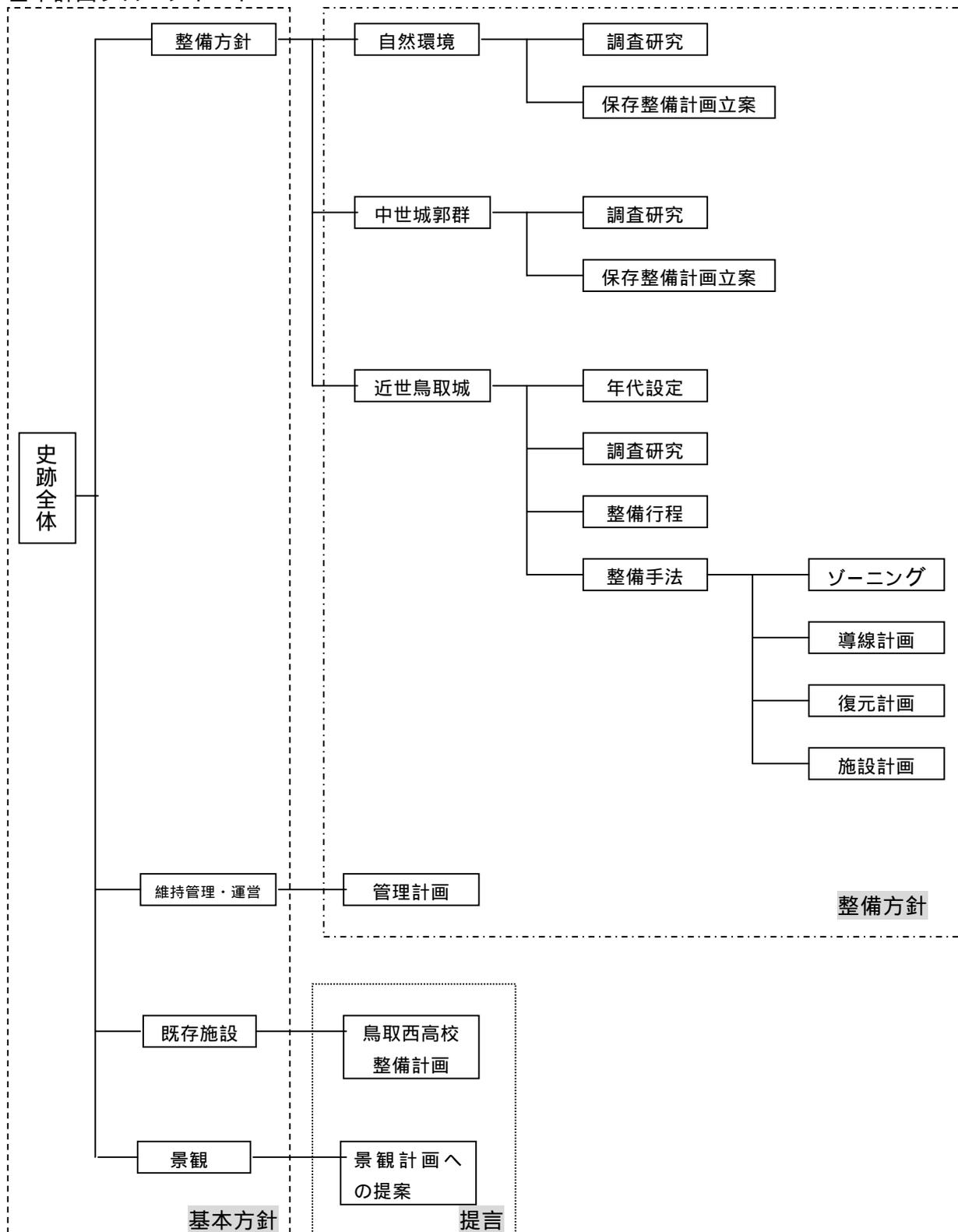


. 基本計画

1. 方針の設定

基本計画フローチャート



1) 基本方針

「基本方針」は、「基本理念」に基づいて調査・分析・検討した結果導き出された「整備のあるべき姿」をまとめたものである。

史跡鳥取城跡附太閤ヶ平には、

(1) 所在地としての久松山の自然環境

(2) 太閤ヶ平を含む中世城郭群

(3) 藩主の居城としての近世鳥取城

という異質な要素が、重層的に存在している。

これらの要素は、それぞれさらに、久松山系の自然、吉川経家と羽柴秀吉の攻防戦の遺構、近世城下町といった史跡環境を構成する異質な要素につながっており、史跡の整備にあたっては、これらの要素のもつ特質を調和させる必要がある。

1. 史跡全体

遺構のみならず、久松山の自然環境も含めた、史跡の文化財的価値の永続的な保存を目指す。

整備等の工事によって本質的価値が失われることのないよう、現存する遺構の保全に充分配慮する。

地形・自然環境と重層的に残された遺構からなる鳥取城跡の特性を生かした保存と活用を進める。

2. 整備目標

市民の憩いの場として、また来訪者に史跡の価値を伝える学習の場としてふさわしい整備を行う。

滞留に値する観光資源としての価値を高める。

3. 自然環境

久松山及び太閤ヶ平を含む史跡鳥取城跡全域の歴史・自然環境の整合性ある保全を目標とし、状況調査を実施し、良好な状態を保つよう植生の復元も視野に入れ、適切な保全を行う。

4. 中世城郭

太閤ヶ平を含む中世城郭については今後詳細な調査を実施し、その結果に基づき整備計画を策定する。

5. 近世鳥取城

近世鳥取城跡については、城郭としての全体像を明らかにするため、建造物・郭・石垣・道筋等を含めた城全体の復元的整備を行う。

年代設定	資料の充実性、また城郭を継続的に利用した最終の段階であり、一種の完成形である幕末期を整備年代に設定する。
遺構・建造物の復元	建造物・石垣等、復元にあたっては、根拠が得られたものから検討する。
整備行程	城郭としての全体構造の復元的整備の視点から、整備効果が高く資料・発掘調査の比較的進んでいる大手筋より整備に着手し、計画的・段階的に整備してゆく。
調査研究	二ノ丸の櫓群、及びその他の建造物についても、整備を前提に調査・検討を続ける。

6．城下町景観

城下町を視野に入れ、歴史的景観醸成、周辺の自然環境・都市環境整備の基点となる整備とする。

7．既存施設

既存施設については、当面併存を許容して整備を進めるが、史跡の本質的価値とは異なるものであるため、将来的には移転も含め「あり方」を検討する。

8．維持管理

史跡の環境維持と活用のため、一元的な管理運営組織を設置する。

9．市民参画

史跡の保存・利活用への市民参画を促進する方策を講じる。

2) 整備方針

城郭整備で重要なのは、文化財としての遺構保存・保全とともに、根拠に基づいた城郭縄張りの修復により、城郭空間の顕在化を図り活用を進めていくことである。

また、史跡と都市公園の一体的整備については、大きく「復元的整備」と「都市公園整備」といった二つの要素で考えていく必要がある。

整備方針を「久松山自然環境」「中世城郭群」「近世鳥取城」「既存施設」の4つのグループにまとめた。

区分	方針	
久松山自然環境	調査研究	自然植生を調査し、適正な維持管理計画をたて良好な状態の維持管理をめざす。
	保全	城郭史跡として遺跡保全を図る。また、鳥取城の基盤であり、身近な都市緑地である久松山の自然環境を適正に維持管理し良好な緑地保全を図る。 幕末以前の遺構については、毀損のないよう十分な保全を図り、植栽等も含めた史跡内の管理を徹底する。整備工事等において遺構に影響が大きい場合は、遺構保全を優先する。
	活用	来訪者にとって快適な歴史学習の場、憩いの場となるよう整備を進める。遺構・自然に配慮しつつ、安全に史跡内を利用出来るよう、回遊ルートを保全・整備する。また、都市公園としての機能整備を図る。 -2-2)導線計画・4)施設計画・6)景観計画
中世城郭群	調査研究	太閤ヶ平をはじめとする久松山内の中世城郭群等の遺構は、史跡内の分布調査を行い、遺構保存状況を把握する。その上で、重要度の高いものについては個別調査を行う。
	保全	現況把握後、保全に必要な措置を講じる。
	活用	太閤ヶ平については詳細調査を行い、その他の遺構についても、今後調査研究をもとに史跡価値を明瞭化する保存整備方針を個別にまとめる。 今後、継続して調査成果を基に研究し、成果を公表する。また、遺構の明瞭化や導線の設定・解説版の表示など利活用の方策を講じる。

区分	方針
近世鳥取城	調査研究 修理・復元等の整備に先立ち、文献・遺構・現状把握等の調査を継続的に行う。 歴史的経緯・建造物の復元可能性も含め、継続的に調査研究し、成果を公表する。
	保全 現況石垣は、悉皆調査を行い、必要に応じて保存修理作業を行う。 現在行っている修理事業については、基本計画に沿ったものに順次仕様を揃えていく。
	活用 鳥取池田家が居城とした時代の鳥取城。現在の景観を決定づけている近世鳥取城については、その特性と歴史的重要性を可視的に理解できるよう、縄張をはじめ全体構成を明瞭化するための整備を行う。 整備方法としては、遺構の保存・資料の残存状況と、改変を繰り返して到達した鳥取城の特性をあらわす形態であることから、幕末期に整備年代を設定し、現在までの調査をもとに、石垣・堀・建造物等、可能な部分の復元的整備を行う。 建造物は遺構・絵図文献及び写真等の検討により、復元要件を満たすもののうち、整備効果の高いものから段階的に行う。(道筋・石垣・景観・構造体等) 骨格を明瞭化するために必要な堀端及び大手筋の復元的整備を段階的に行う。 象徴的存在である二ノ丸の三階櫓・菱櫓・走櫓等については、調査研究を継続し、復元を検討する。 山上ノ丸については、現存する遺構が近世に属することから、近世鳥取城の一部として扱う。 -2-3)復元整備計画・5)整備計画図
既存施設	仁風閣 整備設定年代より後代の建物であるが、洋風建築として高く評価されている。国の重要文化財に指定されており、その価値を損なう移築は困難であるため、城跡と併存させる。
	県立鳥取西高校 当面史跡整備との整合性を図りつつ併存する。 整備設定年代より後代の施設であり、将来的には、移転も含めて「あり方」の検討が必要である。
	鳥取県立博物館 当面史跡整備との整合性を図りつつ併存する。 整備設定年代より後代の施設であり、将来的には、移転も含めて「あり方」の検討が必要である。 -2-6)景観計画
	その他の既存施設 民有地・小社等の既存施設について、使用状況・管理者等を調査し、適正な整備・管理方針を確立する。

2. 整備計画

1) ゾーニング計画

史跡の現況分析、基本方針等により、計画地は、以下のゾーンに区分され各々のゾーンの特質をまとめたものが、以下ゾーニング計画である。

ゾーン		整備計画方針	
A	城郭の中心部としての復元修復整備ゾーン	A-1	・城郭中心部へのエントランスとして重要な部分を占める擬宝珠橋、中ノ御門跡、太鼓御門跡ゾーンを整備し、大手より二ノ丸に至る城郭の骨格を顕在化する。
		A-2	・城郭中心部の中核部として、現在進行中である天球丸石垣修理を進める。二ノ丸は、三階櫓等の建造物の復元を視野にいれ、調査研究を継続して行い、並行して休憩施設、サイン整備等を行う。
B	城郭としての修復整備ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・中世城郭から近世城郭への変化を示す山上ノ丸は、旧ロープウェイ施設を撤去し、石垣修理、環境整備を進め、往時の縄張りの顕在化を進める。 ・鳥取市街地全域を眺望できる天守櫓跡にサイン、二ノ丸に休憩施設等環境整備を進める。 ・太閤ヶ平は、発掘調査、伐木草刈り等を進め土塁遺構が理解できるよう整備を進める。また、久松山・山上ノ丸を見通せるよう現状樹木の整理伐採を進める。 	
C	鳥取城の基盤としての久松山保全整備ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・山下ノ丸と山上ノ丸を結ぶ中坂道の往時の姿を手軽な登山コースとして整備する。 ・中世城郭遺構群は、発掘調査等により、遺構を確認し時代差等が理解できるサイン、周遊散策路整備を進める。 ・久松山の植生・生態系について、現状・変化を引き続き調査し、鳥取市のシンボルとしての久松山（都市林）の動植物等の保全育成をはかる。 	
D	三ノ丸整備ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、県立鳥取西高として利用されているが、往時は史跡の中心施設である三ノ丸御殿跡である。今後、史跡内に相応しい教育施設としての改修整備を要請する。 ・大手筋との関係は、史跡整備計画に教育施設をすりあわせる方向での整備を要請する。 	
E	内堀ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取城跡を訪れた際、内堀沿いの歩道より眺める城の石垣景観は、内堀水面と併せて景観的に重要である。史跡景観をより醸成するため、内堀石垣の修理、土塀等の復元を行い、順次城跡正面のしつらえを整える。 	
F	管理運営学習ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・往時、史跡の城内施設地跡(米蔵跡)であり、現在は公衆便所、花壇等整備され、久松公園として市民や観光に利用されている。史跡地内の施設として今後も景観保全をはかる。 ・史跡管理施設の設置等により恒常的な史跡維持管理に努める。 	
G	城内施設ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、仁風閣、県立博物館が建っている。鳥取城跡とともに活用を薦めるため、導線計画等の整備を進める。 	
H	城下町景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の鳥取市中心市街地は、鳥取城城下町として計画された近世前期の都市骨格を残している。城及び城下町としてふさわしい景観を維持するため、都市計画とも連携し、城内からの城下町景観及び城下町からの城景観、特に旧袋川以北の三街道からの視界を保全するため、建物の高さ、バランス等を考慮した景観保全に努める。 	

広域ゾーニング



B : 城郭としての
修復整備ゾーン

太閤ヶ平・中城郭遺構

久松山山系景観保全地域

C : 鳥取城の基盤としての
久松山の保全整備ゾーン

久松山中世城郭遺構

B
山上ノ丸

A・D・E・F・G
城郭整備、公園整備

城郭周辺ゾーン

H : 城下町景観ゾーン

S = 1:10000



(久松山山系景観保全地域指定区域図をもとに作成)

2) 導線計画

導線計画は、計画地に至る導線及び計画地内導線（城内導線）により構成される。

鳥取城跡に至る導線は、最寄駅である JR 鳥取駅より久松山を目標にいずれも三街道（若桜・智頭・鹿野）経由で徒歩約 20 分、距離 1.5km である。また路線バス、周遊バスであるループ麒麟獅子バス、100 円バスが中心市街地、観光スポットを巡回し、利用しやすくなっている。

車による最寄りの道は、久松山に平行に走っている国道 53 号線である。

また、鳥取城跡は久松山に位置することから、隣接する樗谷から太閤ヶ平を巡り山上ノ丸に至るハイキング道も導線となっている。

計画地内導線は、整備設定年代である幕末期の導線を基本とし、城跡管理導線との整合を図りつつ、誰もが安全で楽しく鳥取城跡を巡ることができる導線計画をめざす。また、今後、計画地周辺の交通体系整備との整合性をはかり、アクセスしやすく、周辺と一体となった導線計画を検討する必要がある。

1. 城本来の導線に沿った計画とする
2. 来訪者にとって安全な導線を確保する
3. 散策・周遊路の整備を充実させ、来訪者の歴史認識を深める
4. 城内導線と周辺導線の整合性をはかる
5. 高齢者・身障者に配慮する
6. 管理用・緊急時に対応することのできる導線整備

1. 本来の導線に沿った計画とする

- ・ 擬宝珠橋～中ノ御門跡～太鼓御門跡（大手筋）を通り、二ノ丸、天球丸に至る通路をメインエントランス、メイン通路とする。
- ・ 北ノ御門跡は、県立博物館入口を兼ねており、サブエントランスとする。

2. 来訪者にとって安全な導線を確保する

- ・ 城内への一般車両の乗り入れを禁止し、安全な歩行空間を確保する。
- ・ 管理用・緊急車両はできる限り歩行者動線と分離する。（県立博物館入口部分は安全対策等検討する）

3. 散策・周遊路を充実させ、来訪者の歴史認識を深める

- ・ 城内全体を巡ることのできる導線を設定し、周辺景観も含め城跡理解を進める。
- ・ 山下ノ丸から山上ノ丸に至る登山道、樗谷～太閤ヶ平～山上ノ丸～山下ノ丸といったハイキングルートの実現をはかる。

4. 城内導線と周辺導線の整合性をはかる

- ・ 城跡周辺の主要道路、主要動線、観光ルートとの整合性をはかる
- ・ 城跡専用の駐車場を設け、大手（メインエントランス）までの歩行導線を確保する
- ・ 内堀沿い歩道からの城跡景観は重要な要素であるが、内堀歩道は現在隣接する小、中学校、高校の通学路及び城跡へのエントランス導線にもなっている。
- ・ 安全で快適な歩道とするため、現在の道路状況を考慮し、改良整備について市、県との協議を行う。

5 . 高齢者・身障者に配慮する

- ・ 近世鳥取城は平山城であり、特に急斜面が多いが、遺構に影響のない範囲で可能な限り、バリアフリー対応とする。

6 . 管理用・緊急時に対応可能な導線整備とする

- ・ 管理用、緊急用車両は、長田神社側、 県立博物館入口側から進入し、歩行者用入口との重複を避ける。
- ・ 管理用・緊急用車両の幅員を確保する。

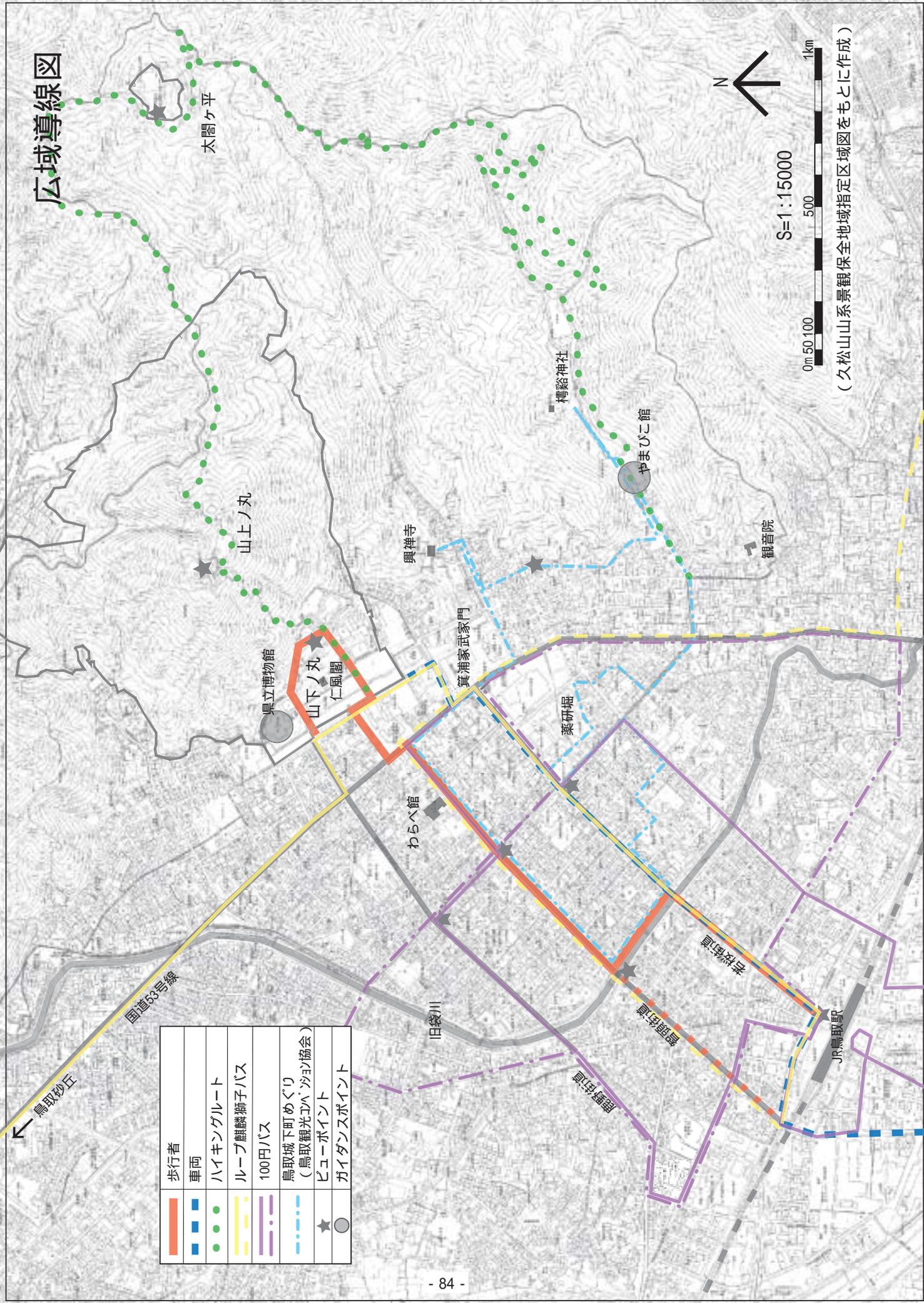
主要導線一覧表

導線	対応ゾーニング	内容
城内主導線	E ~ F ~ A ~ F ~ E	鳥取城本来の導線を巡るコース。 大手（中ノ御門跡～太鼓御門跡）～天球丸・二ノ丸～北ノ御門跡
城内主導線から山上ノ丸	E ~ F ~ A ~ C ~ B ~ A ~ F ~ E	城内主導線に加え、中坂道を使い山上ノ丸まで足を延ばし、鳥取城の構造、城郭変遷を知るコース。 (延長約 1.5 km・山下ノ丸～山上ノ丸所要時間約 30 分)
久松山中世城砦を巡る	樗谿～B～C～A	樗谿から秀吉の城攻めの舞台である太閤ヶ平、久松山の中世城砦、山上ノ丸を巡り、山下ノ丸に下りてくるハイキングコース。(延長約 7 km・所要時間 3 時間)
JR 鳥取駅方面から入城	H ~ F	JR 鳥取駅から、かつてのメインストリートであった智頭街道を通り、市街地に残された城下町遺構に触れながら、城跡に至るコース。 (JR 鳥取駅～山下ノ丸：徒歩約 30 分)
管理用車両導線	E ~ A	県立博物館エントランスを通り、二ノ丸下まで至る。
管理・工事用車両導線	東町水道線(長田神社前)～D	長田神社前の道路から進入し、三ノ丸北部を通る。

山下ノ丸 ←→ 山上ノ丸(標高 263m) ←→ 太閤ヶ平(標高 246m) ←→ 樗谿神社
約 1.5 km 約 2.2km 約 3.4km

広域導線図

	歩行者
	車両
	ハイキングルート
	ループ観光バス
	100円バス
	鳥取城下町めぐり (鳥取観光パビリオン協会)
	ビューポイント
	ガイドンスポイント

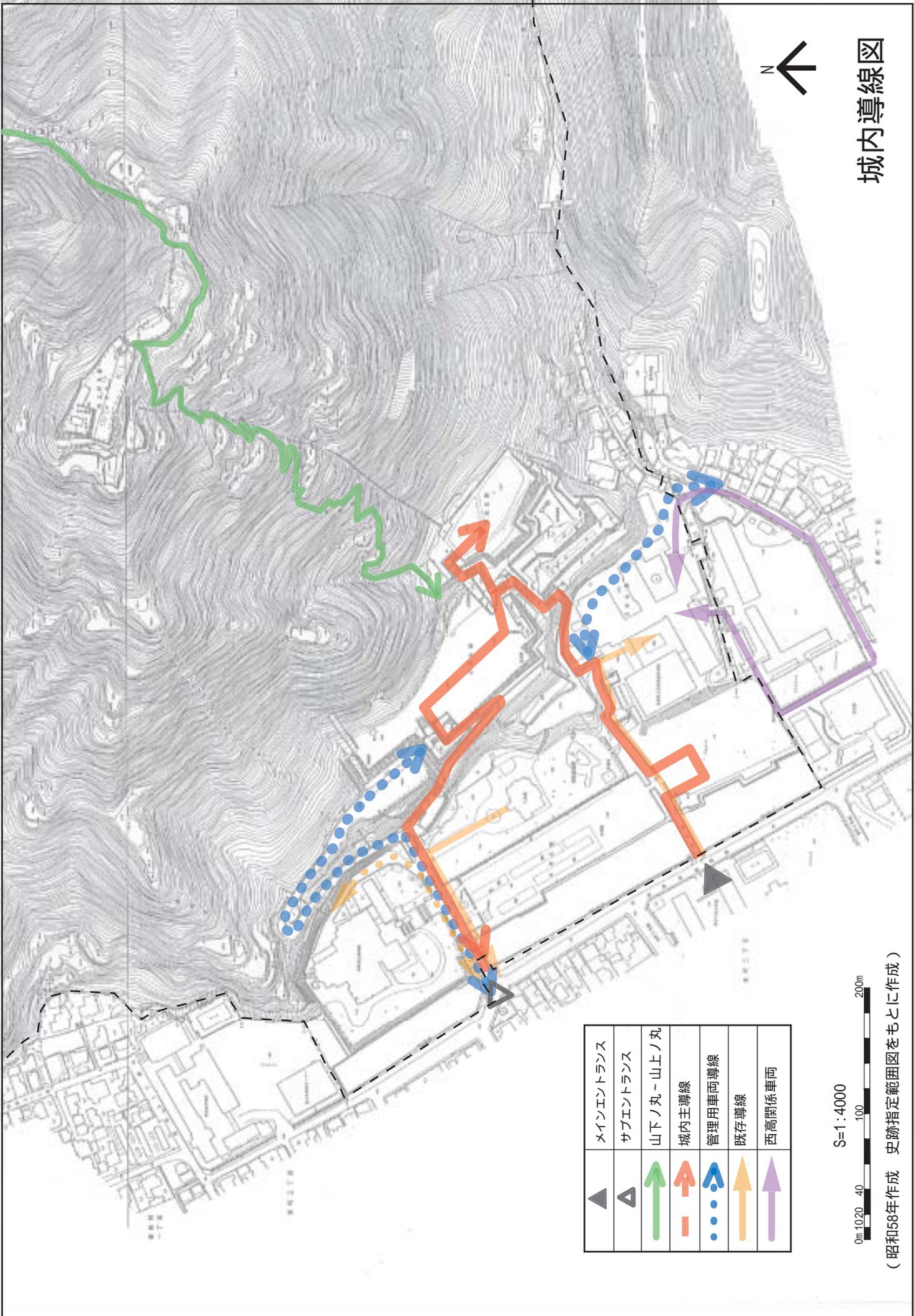


S=1:15000



(久松山山系景観保全地域指定区域図をもとに作成)

城内導線図



	メインエントランス
	サブエントランス
	山下ノ丸～山上ノ丸
	城内主導線
	管理用車両導線
	既存導線
	西高関係車両

S=1:4000
 0m 10 20 40 100 200m

(昭和58年作成 史跡指定範囲図をもとに作成)

3) 復元整備計画(近世鳥取城)

鳥取城変遷図・幕末期想定縄張図・建造物復元条件検討リスト(現時点で判明している研究状況・資料の有無等)を参考に、天球丸・二ノ丸・三ノ丸の御殿を除く近世鳥取城の建造物について、史跡整備における建造物の復元について検討する。

まず、近世城郭の整備年代を幕末期に設定し、変遷から縄張りとは建造物を想定すると、幕末期想定縄張図(P.48)のような姿が想定できる。そこに、建造物復元条件検討リストにより、建造物復元要件を検討した結果、およそ以下のような三種類に分類できる。そして、それを図示したものが、復元整備計画図である。

1. 復元検討資料が比較的恵まれ、発掘調査成果もあり復元作業に着手可能と思われるもの。

大手筋の擬宝珠橋・中ノ御門・太鼓御門等

2. 現時点では復元検討資料が不足しているが、今後の調査・研究等により復元の可能性のあるもの。

二ノ丸三階櫓・走櫓・菱櫓

3. 年代設定・復元検討資料、遺構保全状況等により、検討対象から除外されるもの。

山上の天守、天球丸の三階櫓等。幕末期に既に存していなかった建造物

復元を行うためには、

ア. 発見資料の精査と分析による情報抽出

イ. 城跡内の他の建造物の復元作業による研究

ウ. 同時代の関連建造物や明治以降に売却された鳥取城の部材の追跡調査

といった地道な検討作業が必要である。

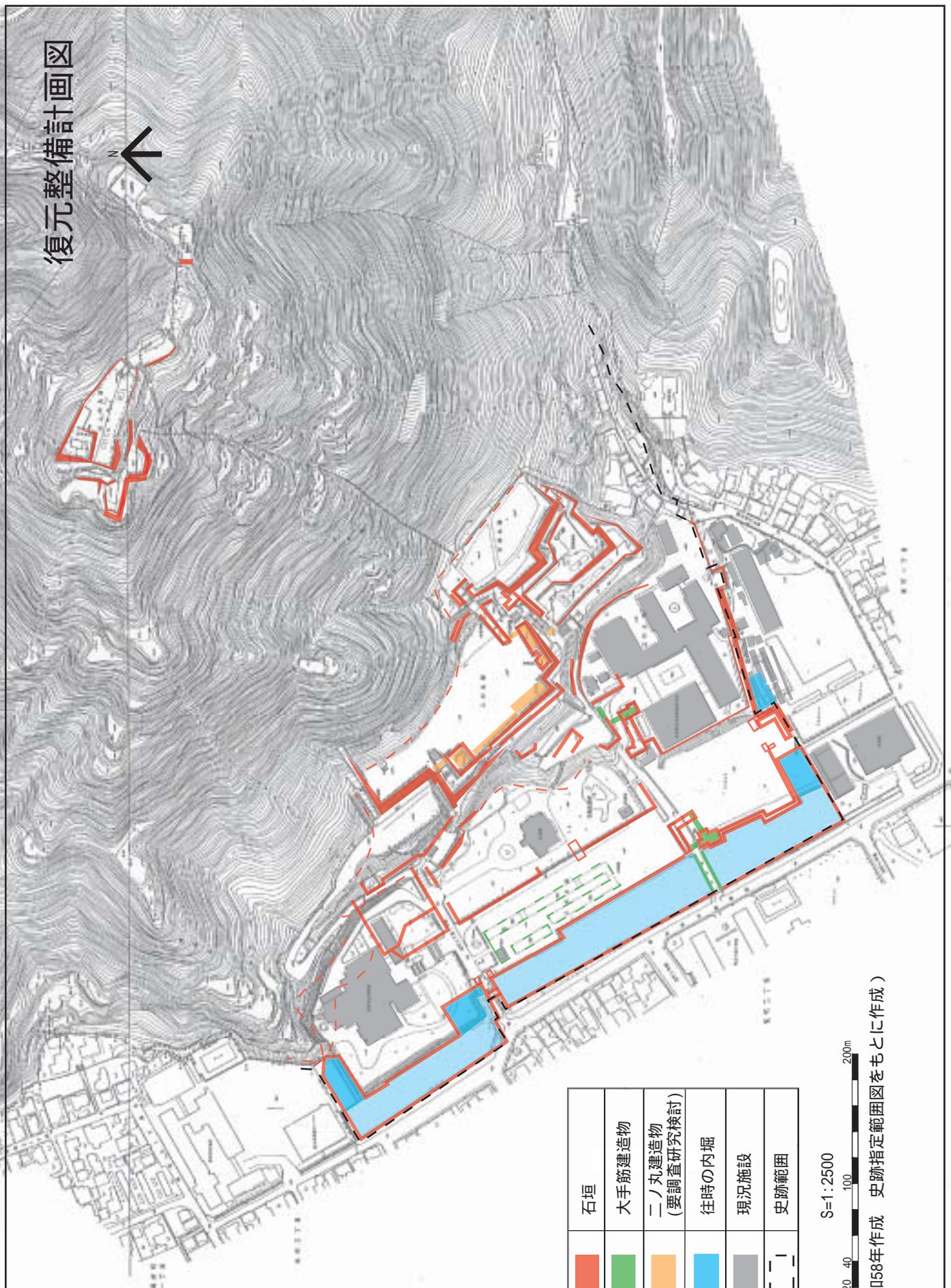
今後、以上のような調査研究を蓄積するとともに、大手筋(登城路)の門・門櫓の復元的整備の実施を通じてより具体的な研究をすすめることにより、二ノ丸の櫓群の復元研究の精度を高めてゆかなければならない。

建造物復元条件検討リスト

場所		存続年代	資料				備考	
			遺構	文献・絵図	写真	その他資料		
山上ノ丸	本丸	天守櫓	近世前期	未調査		×		
		着見櫓	明治前期	未調査		×		
		——	近世初頭?	未調査	×	×		
	二ノ丸	——	近世初頭?	未調査	×	×		
	三ノ丸	——	近世初頭?	未調査	×	×		
	表門		明治前期	未調査		×		
山下ノ丸	天球丸	三階櫓	近世中期			×		
		風呂屋御門	明治前期	未調査		×		
		風呂屋御門下 門	明治前期	未調査		×		
		御積古所	(近世末期)			×	御殿跡	
		藁	(近世末期)			×	御殿跡	
	橋藁	橋藁	明治前期			×		
	二ノ丸	三階櫓	明治前期	未調査				
		走櫓	明治前期					
		表御門	明治前期			×		櫓を含む
		鉄御門	明治前期	未調査		×		
		裏御門	明治前期			×		
		菱櫓	明治前期	未調査				
		御殿						
	三ノ丸	坂下御門	明治前期	未調査		×		
		表御門	明治前期	未調査		×		櫓を含む
		御殿	明治前期	未調査		×		一部試掘
		走櫓	明治前期	未調査		×		
	大手	太鼓御門	明治前期					櫓を含む
		中ノ御門	明治前期					櫓を含む
		擬宝珠櫓	近代	未調査				擬宝珠が残存
	北ノ御門	北ノ御門	明治前期	未調査		×		櫓を含む
		宝珠櫓	近代	×		×		
	南御門	南御門	近代			×		櫓を含む
堀端	兵庫櫓	明治前期	未調査		×			
米藁	藁	明治前期	未調査		×			
	番所	明治前期	未調査		×			
城代屋敷 家来屋敷	屋敷	明治前期	×		×			
内堀	三ノ丸:鳥取堀	近代			×			
	北ノ御門:旧堀	近代			×			
	南御門:旧堀	近代			×			
	城代屋敷横:旧堀	近代			×			
太閤ヶ平			未調査		×			
中世城砦					×			

現時点で復元要件を満たす
 今後の調査研究で復元可能性がある
 復元設定年代と資料上復元可能性がない
 建造物以外のもの

復元整備計画図



	石垣
	大手筋建造物
	二ノ丸建造物 (要調査研究検討)
	往時の内堀
	現況施設
	史跡範囲

S=1:2500
0m 10 20 40 100 200m

(昭和58年作成 史跡指定範囲図をもとに作成)

4) 施設計画

観光入り込み者数予測

入り込み者数予測

鳥取城跡への観光客入り込み者数は記録されていないので、周辺施設入り込みより推計する。

鳥取市全体への観光客入り込み者数は、鳥取砂丘、いなば温泉郷周辺への入り込み者数が、平成11年より14年まで4ヶ年間平均117万人/年で推移している。また、中心市街地観光施設への入り込み者数をみると、やまびこ館が開館した平成12年よりおおよそ26万人/年訪れている。この中で鳥取城跡に直接かかわる鳥取県立博物館、やまびこ館及び仁風閣には約10万人弱/年訪れている。このことから鳥取城跡には少なくとも、10万人以上で、中心市街地入り込み数のおおよそ半数の約13万人/年は訪れていると推定した。なお市民主体の「32万石お城祭り」の入り込み者数等は除外した。

中心市街地内観光施設観光客入り込み動態(人)

	平成9年	10	11	12	13	14	15	16
鳥取県立博物館	41,222	34,428	27,749	28,625	39,536	28,922	29,205	29,399
仁風閣	42,566	34,702	29,947	31,353	28,043	30,530	29,529	35,299
やまびこ館				47,140	39,312	29,027	34,175	31,782
上記小計	83,788	69,130	57,696	107,118	106,891	88,479	92,909	96,480
鳥取県物産観光センター	53,129	51,650	47,684	14,565	37,746	38,876	36,340	34,017
わらべ館	153,645	129,875	117,037	111,459	115,994	125,224	129,219	132,392
合計	290,562	250,655	222,416	260,142	260,631	252,579	258,458	262,889

資料：鳥取市観光コンベンション推進チーム調査資料

日最大入り込み者数予測

鳥取城跡の入り込み者数の多いのは、天候の良い季節、特に春及び秋に集中していると考えられる。このように2季型の入り込み形態の場合、日最大入り込み者数予測は、130千人/年*最大日率(2季型-0.025)=3,250人/日と予測出来る。

ガイドンス施設等の検討

城を顕在化し、史跡の価値を伝えるという観点から、今後、ガイドンス施設またはガイドンス機能をもった場所の検討が必要になってくる。平山城の立体的な城郭、中世から近世までの重層した城郭であることを伝える展示機能を持ったガイドンスを検討していく。また、周辺施設の利用も考慮しながら、周辺と一体となった活用をめざす。

駐車場

駐車場は、車利用の益々増加する来訪者、また団体利用の大型バスに対しても必要である。

駐車台数の算定

鳥取城跡の入り込み者数約 13 万人 / 年に対する必要駐車台数は、以下の算式により算定される。

$$\begin{aligned} \text{➤ 駐車場必要台数} &= \text{年間入り込み者数(人)} * \text{最大日率} * \text{回転数} * \text{駐車場利用率} * 1 \\ &\quad / \text{一台当たり平均乗車人員(人)} \\ &= 130 \text{ 千人 / 年} * 0.025 * 1/2 * 0.3 * 1/3 \quad 160 \text{ 台 / 日 (普通車)} \end{aligned}$$

なお大型バスについては他事例より 10 台程度必要と予想される。

駐車場規模の算定

普通車 40 m² / 台 * 160 台

大型バス 100 m² / 台 * 10 台

- ・ 既存駐車場として、北ノ御門より利用できる県立博物館駐車場がある。
普通車：19 台、県博堀端：16 台で合計 35 台、その他県庁駐車場
- ・ 必要駐車台数は、普通車 160-35 = 125 台、大型バス 10 台となる。
- ・ 必要駐車場面積としては、
普通車 40 m² / 台 * 125 台 = 5,000 m²
大型バス 100 m² / 台 * 10 台 = 1,000 m²
駐車場にはトイレ、休憩所も必要であり、併せて約 7,000 m²が必要である。

駐車場の位置（配置）

今後、広域導線、周辺の交通体系との整合性をはかり、史跡周辺に駐車場の確保、県庁等周辺施設の利用、郊外の駐車場、既存のループバス等を利用したパークアンドライドの検討を行っていく。歩いて楽しむことのできる史跡として、歩行者の安全を十分考慮し、また、駐車場による史跡景観阻害につながらないように計画する。

トイレ

- ・ トイレの必要規模は、最大時入り込み者数にトイレ利用率を乗じて算出する。
(本計画では、トイレ利用率は標準値 1/60 として算出する。)
最大入り込み者数 = 3,250 人 / 日 * 回転数 (1/2) 1,600 人
1,600 人 * トイレ利用率 1/60 27 人 30 人分と設定。
以上によりトイレの計画規模を城跡全体で 30 人分と設定する。
- ・ 既存トイレは、二ノ丸及び米蔵跡 2 箇所設置されている。
既存トイレ規模は、男：大 1、小 3、女：大 2、あと各々に手洗い。
- ・ 必要トイレ規模数は、計画トイレ規模数 30 穴 - 既存トイレ計 6 * 2 箇所 = 18 穴
- ・ トイレは、今後天球丸、米蔵跡及び駐車場整備の中で、必要数を適切に配置していくこととする。

バリアフリー

平山城形式をもつ鳥取城跡は、身障者にとって見学に不都合な場所が多いが、遺構に影響のない範囲で、リフト、板スロープ等、可能な手法を検討し、今後手法としてバリアフリー化をはかる。

5) 山下ノ丸整備計画図

施設
 史跡価値の顕在化・理解を促進するとともに、一元的な管理を行うため、史跡内米蔵跡または史跡周辺地への管理・ガイダンス施設の設置を検討する。

駐車場
 駐車場については、史跡内または史跡周辺に確保し、その他県庁等周辺施設、郊外の駐車場、既存のループバス等を利用したパークアンドライド等の検討を行っていく。



6) 景観計画

現在、史跡周辺の建築物により、三街道（若桜・智頭・鹿野）からの視界が阻害されている。今後、これ以上の景観阻害を進行させないためにも、史跡周辺、山裾部分に高層建築物等の建設は抑制し、ビューポイントを確保していく必要がある。

既存施設について

既存施設	整備手法
仁風閣	整備設定年代より後代の建物であるが、洋風建築として高く評価されている。国の重要文化財に指定されており、その価値を損なう移築は困難であるため、城跡と併存させ、史跡との整合性を考慮する。
県立博物館	当面史跡整備との整合性を図りつつ併存する。 整備設定年代より後代の施設であり、将来的には、移転も含めて「あり方」の検討が必要であるが、現状での可能な史跡景観への配慮、将来的な史跡との関係の検討を行う。
県立 鳥取西高校	当面史跡整備との整合性を図りつつ併存する。 整備設定年代より後代の施設であり、将来的には、移転も含めて「あり方」の検討が必要である。 史跡地内（鳥取城山下ノ丸）にある学校として、史跡管理者に最大限協力していただくとともに、校地整備にあたっては、遺構・史跡環境・景観の保存整備への十分な配慮を要請する。 整備計画断面図より、現状の高さより高層化すると、天球丸跡石垣が見えなくなる等景観に負荷を与えることから、校舎の高さ等、十分な調整が必要である。 大手筋からの視線確保、内堀景観への配慮を要請する。 中ノ御門からの大手筋（登城路）の復元整備にあたっては、他に学校用自動車導線・史跡保存整備作業車両導線が確保できるよう調整を図る。

上位計画との調整

久松山山系景観保全地域等、景観法・条例等との関係を整理し、周囲の自然及び城下町景観に配慮し、整備の効果が景観に寄与するよう、高度制限を検討するなど、関係機関と調整をはかる。

植栽管理について

内堀からの城郭景観、城内からの眺望等、城跡内外の見通しを確保し、城郭の雰囲気伝えるために弊害となる植栽については、十分な検討の上、伐採、移植等整備を行う。



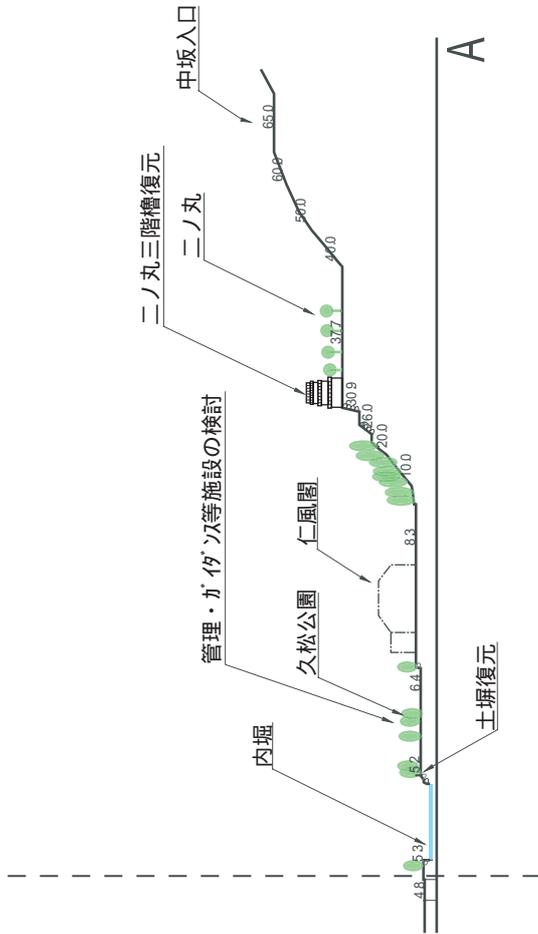
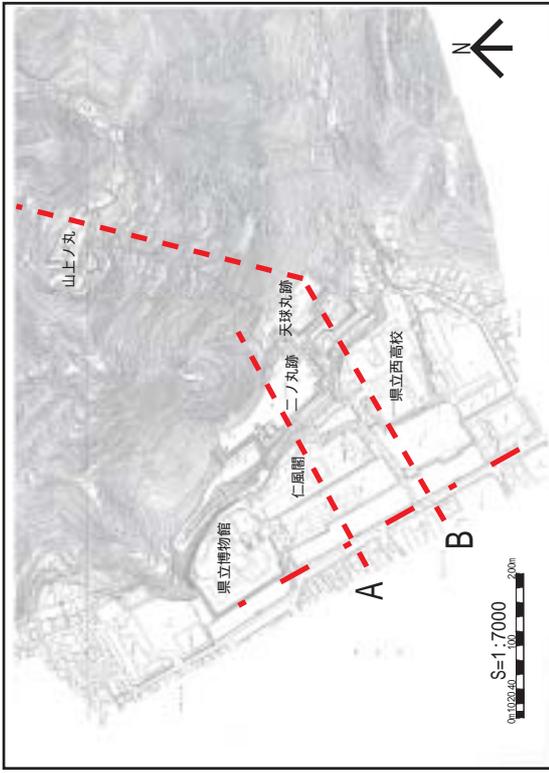
中ノ御門 復元イメージ図-

現況の中ノ御門に門櫓の復元事例を目安としてはめ込み、既存施設が併存した場合

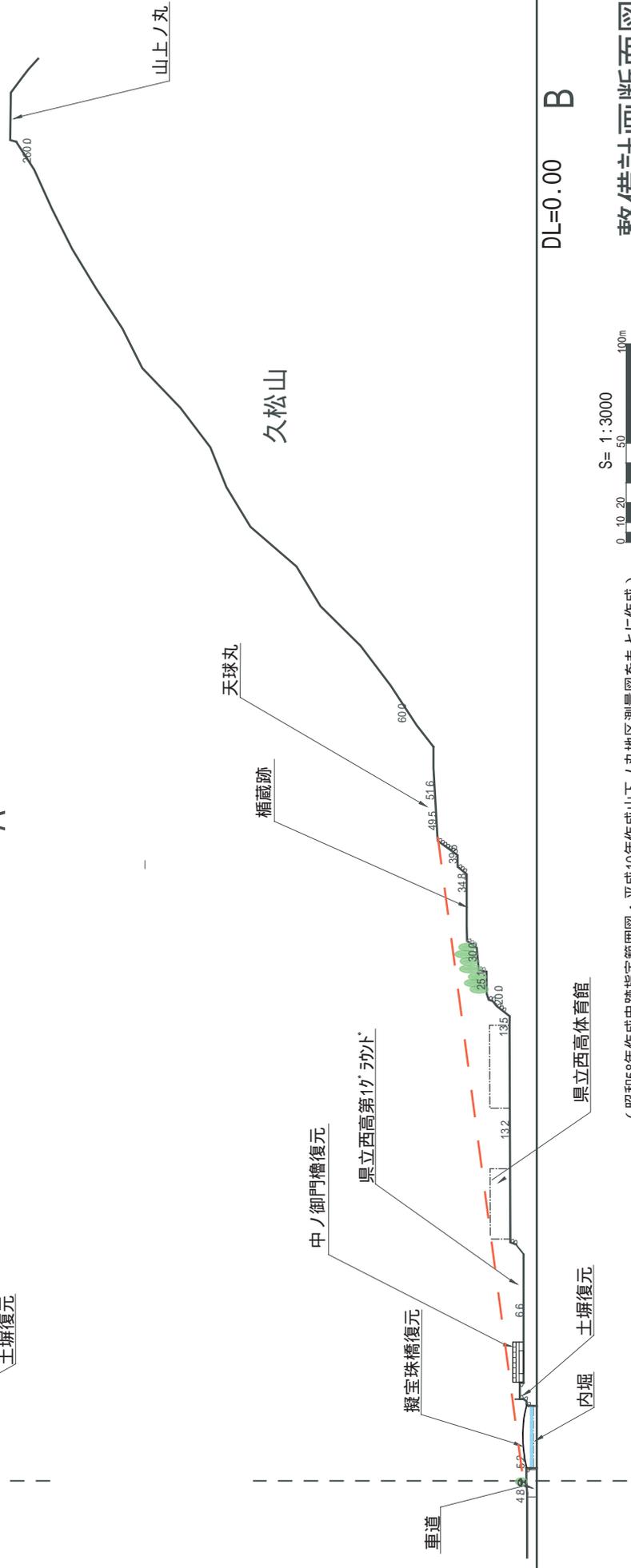


中ノ御門 復元イメージ図-

現況の中ノ御門に門櫓の復元事例を目安としてはめ込んだもの。
実際の整備においては橋等周辺景観も整備する。



A



DL=0.00 B



(昭和58年作成史跡指定範囲図・平成10年作成山下ノ丸地区測量図をもとに作成)

整備計画断面図